

藩鑑

池田

四十一



内閣文庫		
三五函 丁架	二八冊	三四八二號
		和書

内閣文庫	
番號	和 34682
冊數	278 (42)
函號	159 1

388

藩鑑卷之五十七目錄

い部十

松平新太郎源光政

藩鑑卷之五十七

松平新太郎源光政

主君の事



一 ともく人且貴族なりたる人理よりあつて
貴を生ずる者不知らん天地のうちを
生して五体おなしく知る者あらず
皆天地より取らる皆天地より生る皆天地より

居て皆天地を食す誰を貴と誰を
つ飾とせんて小人あり其辨天地の
かく其明日月のことく仁群生をおほひ
智美徳をててふも其の化して
ふもの樂みこれと求むる利あり是れ
許さば益あり是を以て人の徳むこと
甘露のことく人の仰くこと天のこと
くあり人徳より川て貴を生むるもあ

らすや貴あれは徳あり貴賤君臣か
り君臣の生むるも是の如く故に君
れよのうも天の系物を入るることく
地の万物を載ることく日月の系物を
照することく風雨の万物を濕むこと
とく上下内外の別なく無私無怨よ
て人我れ論なく万人のためを憂ひ
萬人の爲に勞して己がためは萬人

を勞せず是を以て上古の聖王は農
人と共に耕し――夫らハ工女と共に織
り衣食を以て人を勞せず宮造をれ
ども木の柱を削らす蓋は軒を搦し
す庭上の茅茨を勞す只人のため
勞して人を勞せしことをたゞ是
奇物にあらず民のものに費せざしと
いふも人も己を利せんこめよそ徳よ

ありきその財を費み民あり君を仰ぐ
是を以て君は人を勞せずのたまふ
す人の為よ勞すまれば民ありこは天の
道あり天ハ奇物の為よ勞して終る天
の為よ奇物を勞せば故に人に勞して
人を勞せざるは天の子あり人に勞
して人を勞せざる候ハ天の吏なり天
子と天吏と其道天は命を以て玉を

保し之窮よりて世に億兆此人を利す
も一後世人子常せまいて人を常す
時天及子肖き又一人世に肖て天下國
家を保事あるをす或は前代の勳を
以て一世を保つといふも餘勳留る
至ては國家分離し之を此獨またるこ
とを得ずるを滅し廟を覆すは故
に國家の分離するを見て其位を貪り

力を以て是を合せんとす時他の人望
を治る人悉止する事を始すして天
子代りて征伐を初る愚蒙の民ひとり
この妻を得ず自ら饑寒を免る
を得ず是を以て愚蒙を助け饑寒
を故より(不便より)は世征伐来るなり征
伐来る時(此)此獨ま(る)ことを治す
必其(る)を滅し廟を覆す也(は)是征

あつて其位より高きことかかれり其位より
おん事を欲すとも人許さず人許
さざるときは天與にせず天與にせず是
を誰に依てりその位を保しん獨まひ
して天地万人小敵せんこと得らざる
也其位よりあつて事を思はく其徳を
修むべし其徳は則ち右の條より人
を勞して人を勞せざるは天道なり

昔烈公嘉言下回

一 君より人を得て民を授けし人
を勞して功とし人を擧て思し
ずること大なる僻事あり王君より貴
しす民仰くよよつて貴きあり君を得
て民を授けし人を得し人より利を
得て知ち其ノ()より向て劍をたひ
ひて汝我より敵する事あることを早

と等し其不我罪しては解あり民
と我どもも獨まなり民来て我も勞
を求む我勞せん車を約す是を以て
故して我を君とす我天と成て民の
為も勞せん約を約せあり勞して功
とすは工匠人のためも惡物を製し
てあはひを得て後も功をあること
と工匠是を功とせん又惡物を買

ふ人是を工匠の功とせん人を擧る
こと我勞を助け民の患を救はるは
あり是を以て我と民と人の恩をうけ
るは我を人への恩を施した財食とい
民のためも勞するを以て民より是を
こふ我與ふるはあり人を擧
て思とせん車馬を隣の人と共し
てあはひと食とを隣の人よりけ隣

人の福と己の福とを肩せりて徳をとり
て思とせんとしひと一人も世の如く思
ふ事あるすたな利慾を不なれ風俗
よまよひ我君との根源と民の長とを
根源とを知らざる故に我常一人の爲に
勞して我にあり人を勞せしむすの
義を辨しす或一人を擧ることた私
曲より起て美民は爲に擧ざるにあら

て種々無量に愚事出来ぬり然我君
の爲に根源と民の長とを根源とを知
り人より勞して人を勞すしむすの義
を明かせて天道をたかひ人由をむ
ひて力を減し家を去る事ありて
す君又後世に主君我の生あるに
國をなすは民を得し富貴ありあらず
と思ひ人より勞せず一人を勞し

尊を授けて人をあかしく人ごとを
理あり高祖已に没すといふとも
いふ祖の國ありよるつ高祖の志立す高
祖の道行いまはさうともいふ高祖の位傾
き高祖の廟覆へり高祖の祭もす
り高祖の志継ごとを治す高祖の道を
行ふ事を治すいふく高祖の懐りを
辞して高祖の位を要す事なくも位

を継いでその道を捨る事なくす
一其友をすてんと欲するとも人
す(さす)す(さす)急慢の心おこす
徳の智意をすて赤子の心も立ぬ
常より深く仁愛れ徳を躰ます
則ち高祖天命を授け人位を授
けり根源よりして善人を捨る事
ひきつれんあり

一 征伐を以て國家を永幸あり黃帝
はことく殷の成湯のことく周の武王
はことく我

神武天皇はかき是求めしるあり
皆民の求めし應す封せしむる國家
を取ることあり殷の契周の后稷魚
周の齊の古公はかき是又求めしる
ありすは君民の求めし應す是を以

て見まは國家は元は授るにありす又
君の與ありしありすありて我はふ
もありすは民はありし與あり
あり元と云君と云皆民を愛するこ
と深き由は民の欲は後ひて是求め
しありふ元と君とありしはあり
すして民は與ありたりは是
あり天子といひ玉家といひ征伐て

乃く其の封せしきて得るも皆一極
と我を以てありしす悉く之を民の爲に
り中一誤て征伐し不し封を授くは
其國を戒むと一民を勞せずして而
て民を勞せし忽ち人煙もたらし天
の背き君も背て位を失ひ爲を滅
さん事必一生れうちある一
ことより利益を授み征伐を先と

志を以て發て國家を利潤せんとい便
候を及とす夫れ一福ひて城邑を以
て初て爲す終るの徒ハ論まをふ
たす

農工商の事

一農人の天地生植の財をつまとり田
畠を開て穀を播粟麻を植山に入
てハ薪をとり鹿を獲てハ豈を刈獲

て山野河海の食物をきて天下の衣
食を勞す工人の天地器用の材を掌
り金鉄土木の類は倚りて其材を用て
農具を出し兵仗を作り衣服を縫り
宮宅をいどあり惣して其れ悉を他
り天下の用は勞す商人の天地の偏
倚を助け其を省て兵を禱ふ能り
其をきて不足あり惣して天下の

財を遍しめて天下の其化育を被り
しむ故は農人の天下の饑餓人ことをお
それ天下の凍餒人ことを怨み天地の
功を私せず自身の苦勞を患はず深
く耕しよく種をおろして苗代より
小苗小苗より耘き多にいりて朝夕
實のらんことをたくり此時を足るを安
せず寒暑風雨を怨まず其ををむる

をさけ飲むるは至てハ一粒を疎とせず
我の腹を飽さす出して天下の口腹を
そあつていとまの日子ハ勤をとり繩を
なひ天下を出して天下の人ハ食を煮
て食を人事を欲し天下の用を達せ
んことを欲す——人ハ天下に是
用の是らざることを患へ天地の寶の
系昧を有て人の用に立ざることをか

かしく万物の材を用ひ万事を修る
そ衣服を修るときハ天下に寒暑を堪
えざる事をあそそそそ剣戟を修るとき
ハ天下の凶悪を堪えざることをあそそ
其甲
冑を修るときハ天下の矢を石を堪えざる
事をあそそそ農桑を修るときハ天
下に耕種を堪えざることをあそそそ禍
釜を修るときハ天下に食事を堪えざる

事をたむきて其室宅を修りて其
人の風粟子堪まら事を忍れて皆久
しく破きさら事を勤め其助力を尽
し帝徳を励し朝より夕より夜陰に
至りて徒に手足をなく事おれ高
く天下の偏倚を忍れ天下に於て遍
く其事を忍れむ海濱に魚塩を
とり田畑に桑麻をとり山岳をとりて

す河流を源しとせし險阻を志めし波
濤を渡り天涯を遠とせし羈旅をり
まはす天下に於て財用を通し天下の各餘を
たふし天下の不足を補ひ天下に於て用を調
ふ農工商のつれづれの如くあり是
天地の心を以て天地の乃を道と
し天地に化を業とし人々お見ること
一家のことごとく人々お見ること

勞する者一を無し天地の民をたすは
天地の化をほとこ一我辛苦を顧する
そのあり是を以て農工商の一人と
お患(共)お勞(共)おや(あ)りて
其成功(居)る人(一)なり一其利欲(有)て天理
を害(あ)るとき(一)人(と)お患(す)る人(は)勞
して人を勞(せ)ざる故(に)農人(は)天下
のため(に)耕(さ)る人(は)天下(の)ため(に)造(ら

す商人(は)天下(の)ため(に)あり(す)天下
の財をぬ(す)み天下(に)財を奪(ひ)天地
の道を塞(き)天地の化をや(ら)ず是(に)を
いて人(は)お(と)あ(り)て共(に)天地の寶
を領(す)領(せ)され(ば)是(を)かり(て)是(を)と
き(に)求(む)求(む)るとき(は)奪(ひ)奪(ひ)故(に)
盜(賊)發(して)國(を)安(く)す民(を)獨(立)す(る)こ
とを得(す)して救(を)る(る)人(は)求(む)

其及の人を求めお慈して民の爲に
福るときは只もとよ歸らん事をいつと
む農工商の人共にお慈つ共におたす
け人も常して人を常せざるときハ
盜賊起ることあり國終に乱ること
あり

一農工商の人共にお慈つとらにおたす
け人も常して人を常せざることハ天

地の人を必ずや天地の及を道とす天
地此化を業とするにあり民をとか
くの如くまよひて今徳をす民の慈
を解こと化をおとす教を宗とす
育を先とす化といハ主君民を先立
の義教といハ主君民を導くの義
育といハ主君民を養育するの義
あり天人をんとす天地を道とす天

地の化を業と一天下を見よとみれ
ことくみして一毫半慈の私なきことまは
民の怨を解こと春日の氷をとくか如
し民の怨を破ること秋風の雲を拂
ふことくみして上下四方瞭然とるは
主君の化あり天心をひらきて天啓を
あはし人倫を昭ふし禮義を詳ふ
し或は我憚れ險難あり事を苦み或

は慈ふれ波濤あり事を知し仁の安
宅不招き義の正路と守き民をして
邪を苦しめ正を安しむるは主君のを
しかり幼を育し老をやしおひ壯長
をいさめ賢良を養し多士を制し
荒蕪をひらき耕化をすしめ蠶桑を
勵まし百工を勞しし器用をこし祥
詒を平にして商賈を安し衣食を遍

くし居不を平しすむらハ主君の責あり
畢竟民をいしてお患（お助るの本意
よか）らしむること肝要あり

一 悪人の民を助るハ是ハ是あり先我君の
君しむれ故を知らず民の長しむ本を
辨せし我（富貴ふ不）り民の貧賤を
あふとり利を考めし恐を救ふし農
工商とおともみ患（お共々助）き事を志

らし農工商相助さむらときハ盜賊起る
國家の亂る事を志す農工商の怨
んを去て本に（）るべき事を志すす
農人（を治る）ことハ農を勅めす安逸を
制せし化せず教（）す育せず宮室を
みつき奇麗を求めて農工を妨げ
すれとも格眞を本とし（）あるを治れ
とも利潤をんとし（）然して後酒食泥

沙のことくは——薪の之を塵芥のことく
にす是を以て天下の食費く天下の薪
芝を——工を治る事ハ工を治る事
逸を別せす化せす教す育せす華
員を忠告——て形質を貴をす齊好を
求めて永くを計らす故に蒸物の成
事遅く——て破る言——只——後
衣服を見ろことと糟糠のかく蒸物を用

ふ事 饑饉のこと——是を以て天下に
衣服足す天下の蒸物少——て商人を治
ることハ商をす——めん安逸を別せ化
せす教す育せす是を以て忠告を
事治る事——布履は税——関門は常
路は若しめ是を以て天下の財用通
せす通す——とも之く——て天下を
る不さす故に天下の人本心を失ひて



共にお患しとらふお助ることをあさすは皆
人をお勞せしめて人を勞せしむる事を
く朝夕利潤を求めて人を困らさ
人を危くすは皆盜賊なり天下皆盜
賊なり天下は亂まること瞬目の間
五丁一天下乱るとまは天下の人お謀
りて若しお救ひて死すは堪忍犬のお食
ふこと一人は是を見てて救ふは人

やも一快がすすは人にお患しお助るの事
を勤む一況やそ君をいいてを己を
利する人おはは是天下は怨敵なりと
知て深くおそれおくみて誅戮す

水木考の事

一天地の勢代を以て一期とす故に天の
風雨地の陰阻皆勢代は益あり是を
以て或は一世は換あり是を以て明君

ハよく多岐を治て凡属の難を遁る君
ハ五十年を以て一朔と一系代を思ハ
テ多岐ハあらず又一母を患ふ故多岐
代ハ益あつて一母ハ換なると人事を
豫ル是天地と並立て天地の化育を
助ケるものあり唐のいふ一一方より洪
多岐ある帝堯のとき鯀多岐を治る者
浅くして多岐ようとして徒に其民を勞

して洪水を治るる一六の帝堯舜
を治るる鯀の任を止めて禹に命す
終に天下を思ふ事一度多岐に換ふ
き事を考へ南陽に益ある事を考へ
大山を穿て龍門の澗を治るる禹方は
洪水是に漲りて終て天下皆滔溺の患
なく系代終に耕作を能す故に天を
をんとして天啓を道として天地の化育

をたすけ系代をやしおひ尚母を救ふ
一尚母を救ふことい安し万代をや
命の幸い難し故に堯舜聖人の明を
以て是に若しめるごとく久しく鯨魚
卓絶の才を以て是を治ること速か
す三度天下を以て其功をあはす
但一毫も人怨ある時天地の心を察
せず天地の道を知りず系代の換益を

計らすし一誤て天地の化育を破るこ
とあり凡國を保つ人の必英才を求め
て名士を掌しめ尚母を救ひ末代を益
すし一利怨をさうて尚母を私する事
なれ

一名士を治る人馬を以て法とす一益
子も馬は名の性も志もくまものありし
いつり名は美苗を養ひ人の口腹を潤

一 言を避けて鼻より天を多し
く天旱す多し少く水の性も志すか
ふて潤す時其代も時に潤ひ其の性
も逆して民を潤さんとするときハ
潤すも不益ありといふも其代是に
くも一 不益ありといふも其代是に
くも一 不益ありといふも其代是に
くも一 不益ありといふも其代是に
くも一 不益ありといふも其代是に

顧みよ其隣に言下を流さるる大
海濱を極て其れも流を考(旱雨)
試し自玉と他國と利を共よ一士農
工商と益を同くして初て國の力を
用也是天地の本仁愛の理より生
て民の爲も不仁の事をあさるる
換のありといふも其代も益あり一
國一人の爲も換ありといふも天

人の為に益あり凡の人の智意を以てみ
より天地を裁けせし十と九後悔あ
る一一人力を揮ひ財用を費し一後國
家と益あり事ハ大あり愚行あり常
に國中を早り明く四方を知て其土を
胸中におさめ旱雨を掌握し補を
穢し其人を盡さし補を
は補くくさるの地をた田を廢し

畠とあり一畠を廢して邑とあり
強て是を補をんとせり防は其の性
運する其の性ハ旱と下り湛して言ふ
ら一むろハ其の性ハ運ふあり其の性ハ苗
をやしたるは天下の口腹を潤す我苗
を養て人の苗を養はす我口腹を潤
し一人の口腹を潤さすハ其の性ハ運ふ
あり志をくく其の性ハ運ふ防ハ水補怒て

却て人々逆ふ或は問て云く古より農
家は井闔あり各性も逆ふ如く一各
性も逆ふに如くすや如何答て云く各
の性苗を生養ふと人の口腹を潤す井闔
は農の爲あり山豈も各性も逆ふあるんや
又問て云く徳は利を湛はる山もあ
しむるも亦農の爲なり各性も逆ふとい
ひつたり如何答て云く徳をす各性ハ

人我の別なく天下の農を潤す一人の
農を潤して天下に農を害ふは各性ハ
あるす井闔は下流を助けあるす更は一
夫の爲もあらず各性を遂るあり而
天下に爲もするは水性も流ふあり一國
一人の爲もあらず各性も逆ふありた水
性も從て逆ふ事あり也

一 必も各性も流ふ時ハ旱極補せざる可也

已補せざる所をいあしめて畑とす下
又各換の取ハ各言きにてあて志々も下流
ゆく或ハ各上大山此内より流出し雲
深く雨強きよ逢て俄に洪水漲り来
るありし中一此の如く此地よありハ馬の
跡を尋ふ下但一外小用各あく急
介くやくあふく一懐を弘く一流を安
く一各をうかめて堤をやしくす下又

山遠くして風換の地あり邑を多くし
下竹を植てを弘くしてた右小杉松
を植田畦よハ柳をさし畑界よハ桑を植
し一畑して田畠を廣くせ入事を思
はずたかこひの繁やう一ことを思ふ下
此のこしく此地田畑弘き所ハ農人種を
蒔こと多くして耕すこと深くす耕る
こと墾せむと一他毛風換す所ハ農人

去り常々そのあり又田畑を接してお
灰れぬくありハ驛を置て牛馬を多く
し工人不便ありしめて費用を省し高
人不便ありしめて往來を繁くし市
屋を力をそへて安平をんを盡し數
年爲りされハ變りて糞土を成す下
其外毎村にまゝ薪木の地ある下
若其村にまゝ薪木の地あるハ正邊の

山麓地を省せしめて山麓にありて山
をくハ薪木を産し山麓にありて村に
力を省て遠方より運をしむし山麓の
便なるしすハ力を省て邑を移さ
ハ言山に便し是言上ありハ舊地を移さ
上田上畑に築きしをなれぬし一村力
たすはる時ハ近々の力を省ししを以の
力たすはる時ハ遠近の力を省しし遠を

此力足さうりときい一玉の力をかまへ一國
の力をかまへいふ後早後風換の地も必ず
難をのくれ山難遠くして樵柴藉す
ふりしむ邑も必ず便を求めゆへん元
下を以て天下を助け天下を以て天下
を安んずりたると三人の旅密雨を
逢ふとま一人の笠二つ、持て三人の
笠を重複して蓋二人の笠二つも持す

して旅人ふいこの笠二つ、持て二人の
みのと笠とをいふと二人共の粗免多へ
し又二人の物一人の弓を持一人の
矢を持て共より箭金かきさうと年い箭
を持さう人箭を弓に付てせしは赴か
歎を納て自他共の利を成へしは此
笠二つ、持て重なる蓋一人の蓋の為又
換へる時の為をいふ一人の蓋を放

ふして忽ち二人をぬすこと不便な
り策ありて勇なく勇ありて矢なくハ皆
其力たゞさるなり徳も二人の力を一
よすりとまじハて事ありて皆志を遂る
事あり天下此五餘を以て天下の
不足を補ひ天下の力を以て天下を
を救ふ時ハ是れありヤとハ事なく
天下風旱多々換の患をくれば又地力

不足の如きハみまればあり未代人我の
相甚しくこの筈餘ありあれも人の
多事一を建つす多策是すれもお
たすく事一をせん人の徳は奪りれ
不義は陷ることをあす能くか

一古ハ農桑の学あり武士ハ馬の学
あるハ如く農人農桑の家は生る
くとも農桑を学ばすくハ武の学

馬は家子生れて多馬を学ハナラズ
故子明主ハ農桑子師を置き邪農ハ自
り邑子臨む帝堯ハ后稷子命す啓
ウカテ学ノ徳ハ多事ことを其天仁を
ふと一天仁を道と一天下は人信實
ありハテ学ふてひおこる一たと其
学多といハテ君天仁をふとせず天
道を教とせず天下の民忠信をふす

天下子多ハこと物ハ多す按る農人ハ
天下の衣食子多ナリ衣ハ寒を防ク為食
ハ饑を止るハ人ハ為あり寒と饑ハ人
の患也急ありとのあり故子農桑の業ハ
至テ切要ものあり今人至テ或ハ飢或
ハ一不仁の人ハ一とハ多ク食を
分け衣を奪ふハ一眼を奪ふハ多
ハテ農桑子急多防ハ天下の人飢寒ハ

免走す故に農人の昼夜元来此衣食
を勞し朝夕此事を勤むし是を
以て農桑の学を仰ぐ孝悌忠信を
以て本とし困勞を志めひ飢寒を堪え
を以て厚とし少しを能くして後邑として
師ありすし其事をくしとして学あ
らすし其事をくしめよし其道を
堪えしものを出して工人の学を授けし人

の道をおしして堪えしものを出して商
人の学を授けし商人師あること工人の
かくありしめよ商人の道をしして堪え
しものを出して農人の後者とありたり
能くして後有司農工商を往て其勤勞
を賞し其怠惰を罰し其工商を
勸めし其不工商をくしめてよく商を
そのを賞し其怠惰を罰し其通工を勸

めを貪りうるものを照し善を取悪を
捨ハ天下皆之不義を去ちて自勤ること
切あるハ天下皆之不義を去ちて自勤
ること切あるハ天悉く助て衣食財用解
り有ハ衣食財用あまりあるハ
境飢ハ凍ハ八境飢ハ凍ハ
天下の之を多しとあり

一 中召以下の役者ハ皆民間より出せし毎

年臘月ニ惣地以惣を領と惣里の長者
と相談し其年の役者を撰出ハ大
体ハ二十以上の子弟を善とす勇健
を本とす俊秀を先とす農工商堪
たして民間より歸れるものを忠とすこと
なり是去を十人の内より一人二人の
用の人を多し又奴婢の類ハ乃至八九
人の内より三四人も多し其材を急し

てを求めよ。應す。――君子亦たこれに
事。是よりす。其の本農人を出さ。――其農
業のこと。き。一村の力を竭して。輔
君。其邑民幸ること。を好ま。其して。化
の人を。や。ひ。い。す。と。其材を。え。
ひ。て。求。よ。應。す。人。――想。して。後。者。食。
禄。と。い。各。主。人。――下。り。出。して。民。官。に。役。す。
事。な。り。れ。後。者。は。禄。を。求。よ。合。下。其

材よ合下主人後者と志を合て長そ
志を助けて禄は主人の志に任ま下
されは毎年二日三日を以て後者を改め
故よ天下の禄を求よ合ひ天下の品を材
よ合よと。其は天下安泰。――して天下のみ
た。る。事。有。り。す。

一 民間七十以後十五以上若老体の人長病
の人不体不具の無為に事下の人を國

主たり是を害ふ一但父母并幼子二
人をハ其子其父自力を以て害ふ一幼
子二人ハ餘ハ外をハ國主より扶持せ
一親戚あるハ勇を彼に委しめよ親
戚亦くハ家を國主に求しめよ食も勞
せずして居し勞せしめよ必其安在し
て食せしむることをられ相應の業を
以て勞す一又父母幼子ありて其

子其父貧乏ありハ一村ハ命して五年其
農を救しめよ父母害子ありて貧乏あり
らハ一村ハ命して三年其農を救しめよ
農を救ふとハハ耕し耘るのみハあり
よく其水土を治めよく地力を補ひ苗
代より小苗小苗より飲るよハあり
村をして其力に足らざる不を補給し
よ想して常に民窮をくみりみて人を捨

すゝめ土を害せし耕作を怠りざる所ハ
天下ノ貧乏なく又饑饉なくして盜賊
のたごる事一も起らざる

一 聖人の仁愛禽獸不及但一人を害
するに志す故に禽獸人を害めざる
ハ愛する事を治す春秋に獸をうり
三冬に鳥をかるあり又禽獸をかり魚
鼈をたて我口腹をや一あるものあり

我口腹をや一あるものあり
忠多こと原一山に物人あけれハ猛獸推
路をふさぎ海に漁父あけれハ毒魚海路
よこすをひす其上無と魚とを害し
一人此口腹を絶し悲ひす天下の漁獵
を禁断するることか一佛氏の殺生を
禁断するハ主君の及ハあらず佛者儒
者と根本不同してその道異あり是を

以て佛氏の佛氏にして儒者の儒者なり
り其根本を以ておぼしめておぼるることあり
れ

税法の事

一 貢ハ民の爲あり誤て君に助けとする
ことありれとその故ハ君君として人
を求めしむるありす民民として人
とを求めて君民を助けん爲す事

此位より昇るたは民を利せん事を深し
己を利せん事を左のくは是を以て己を
利せんことなり其功を治るる之の心
持あり第一農人の天地生殖の財を掌
りて天下に衣食の務すものあり自飽
までよ食ひ暖みよよは是を以て天
下の爲よ貢を治む第二常人の情豊年
よ凶年の事を思はず秋實よ春耕を

思ふに五穀を放ふに綿布を私する所の
天下の凶年を故ふ事あつては是を以
て天下に為す貢を治む第三勇士を養
ふて兵休る策を常きまは天下の猛獸を
治て天下を安んずることあつては
人を盡てをくは化育を助けまへん天
下は愚蒙を故ふて天下を善んずること
あつては是を以て天下の為す貢をた

さむ故に聖人民間に税する事を解せ
す更なる自己のため衣食金銀を念ふ事
あらず

一 税法は土地の廣狭を等しくして吾國を
明かしく農をすしめ歛を減るにあり
故に聖人の井田の法を用ひ春は耕を
助け秋は歛るを計り井田は其法を備
せり此法又廣狹を等しくす所の

春ハ耕を助るハ農をすくむる也及秋
ハ斂を計るハ斂を減る也道あり本朝
ハ井田の法ありた善悪を明し
及別を等くす春耕を助るハ種倍の法
あり秋斂を減るハ法をよむ事あり
是皆民を救ふの法あり不詮税法の
意ハ人の五穀をたより人の衣食を
あつて御まをを税斂し大方毎村ハ

蔵をつくり鰥寡孤獨をすくむ萬民の
衣食の用を補ひ洪な洪士不慮みあま
るをハ天下に凶年に備ふハ五穀を
天下に實あり農人獨放すすくす金
根ハ天下の實あり工人獨放すすくす
兵杖ハ天下の實あり勇士獨放すすく
す農人ハ五穀を放す工人ハ金根
を放す勇士兵杖を放すすくす五

穀遍々すして天下を以て農具遍々
すして耕を以て休め久松周々す
して天下亂る若くむして故に天下相
救て饑せず農人自他を以て自饑
すして事おわれ故に明君は天下の
為に税歛して天下のためは五穀を賣
む是を列の法を善する所あり是を以
て明君は倉廩は天下の倉廩あり其積

粟は天下に積粟あり故に天下喜ん
て税歛すも一人も其實を私せざるもの
あまは天下是を識る其愚はして會
るためあり

一 暗に此税法は是に因りてすた自
の爲に税歛して天下万民のためは歛せ
ず是力を以て民に衣食を奪ふあり
故に民是をおくむる貧食は飽きず

酒不酸ハ民の爲ニあるナリ珠玉を弄
ハ奇物を好むハ民の爲ニあるナリ綿繡
を美珠玉をかさハ民のためニあるナリ
便俗を重シ好色を求むハ民の爲ニあ
らナリ宮室をりたり履屐を重シナリ
ハ民の爲ニあるナリ物獵を樂シ遊
觀を好むハ民の爲ニあるナリ決忠化
育を輔けたりハ民の爲ニあるナリ決士

をどきて己を教養誘はるハ盜賊あり盜
賊ありて長く天に命を保ことを行ん
や爰を以て皆天下に肖りて其位を失ふ
故に明君ハ天下の爲ニ良ををき天下に
爲ニ師をやしあり天下の爲ニ祝飲
たとハ約束定餉ハ人より毎日そま
さを求めんハ一定の約束ハ一定のま
さを求む
せて歸りて三分にして三分の約束ハ觀

今日一疋の豹二疋此駒を帯して二疋の豹
より多く食せず怨あらず一徳とも
二疋の豹かたむく熱て故に二日に一疋の
豹を帯して二日に二疋此豹を帯す
も一已く負ふのまゝさたりとておと
もに二疋此豹を帯す一日飽て二日餓
也農工商の母もあふこと是に同し故に
明君は民を救ふの道をおして税歛を

節せし今税歛を節すも税歛を急
よまざる皆已く為して民の爲にあらず是
を以て民を治をさす孟子の五十
歩にして止るも百歩にして止るも皆是を
るありといへり是あり故に明君は税歛
を節せしり税歛を節すも防の五穀
農家の費して天下の食乏し天下の食
乏しは是は終に農家の食乏したる一

是の弱は二是のまらけを有せて歸りて
後に其力を愛して一定のまらけを以て
以て飼て二是の弱を饑すは、
かゝるく此の如くある時にお共
に飽こす希
みして饑ること多し、
然るに則ち民の
力を以て飼ては、
民を食ふ飽こむるは、
民を食ふ飽こむるは、
民を食ふ飽こむるは、
民を食ふ飽こむるは、

あるす只民は救ふの道をといて
をまらめ富をとふき飽こむるを禁じて天
下とお共なやましく天下と相共
に飽て長
く此の苦を免る事を以て
名を
を求め智恵を以て
仁智を失
ふては、
一 税歛の法教多あり田畑は
其を年貢
よる邑は其を地子とし家
は其を棟金

云財用は馬を運上と云記するは馬を馬
の口と云取は馬を取は及と云あり農人
の邑は地子を取て棟別を取て
其子亦家ありと云とも父兄既は邑
は地子を出せあり高の邑は地子を取
らすして棟別を取て不毛の地は
て貨財あれをあり但し素は高(高)義
なり驛は口の口をとり御村は取役

を取惣して民は運上を取て程少を善
とす天下の物は天下の物にして君は
人の有はあらずして天下に出
すは元下を定むあり愛する素は重か
るし税する素は程の多し又海は也そ
をおて運上の重きは為は往還の船を
とつて道は関を立て関役多きは為
は高賣の人を費すたらんは一板は國

家の患あり、諸物皆此運上を經る故
よき直言くして、万人其費を業る事
なり、年貢の外、諸税免許あり、其
事あれども、右より、如く、吾民皆
君と、諸良、諸士を害す、其、民なり、其
上、吾民富まる、其、時、或、安逸を生し、
或、貨財を費し、而、天下此、其、
ひとあり、是を以て、吾民、税せざる、事、

を、汝、若、多く、税、其、時、又、吾民、大、
に、苦、む、近代、運上、を、た、商人、倉、
廩、を、貯、せ、し、其、事、あり、聖人、の、民、の
為、に、物、中、倉、廩、を、愛、せ、ざる、あり、
故、に、倉、廩、途、者、八、事、を、お、さ、る、其、五、穀、不、
損、り、て、國、に、益、あり、事、を、考、す、是、を、
以て、明、君、の、天下、の、為、に、税、し、天下、に、
為、に、税、せ、ず、故、に、税、する、も、税、せ、ざる、も、悉、

恩澤に浴して天下お救ふの道をお貴ふ
あり



